

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	筑波大学	整理番号	d002
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	先導的・国際的な「こころ」の科学者の育成		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 情報学、神経科学、心理学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) 感性情報学、行動神経科学、精神機能障害学、分子神経機能学、システム脳科学		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 人間総合科学研究科・感性認知脳科学専攻 [博士課程(一貫制)]	研究科長(取組代表者)の氏名 後藤 勝年	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学の感性認知脳科学専攻は、感性を含めた人間の心という脳の高次機能の解明に向けて従来の文系の枠組みに医学的視点を導入し、これまで困難とされてきた人間に関する包括的な研究課題に幅広く挑戦し、人間科学の新研究領域の創成とそれを担う研究者育成を目指して、平成13年4月に設置された。この理念のもとに、本専攻には基礎人間科学としての心理学(比較認知科学、行動神経科学)と神経科学(機能情報処理機構学、システム脳科学、神経分子機能学)、そして応用人間科学領域の心身障害学・精神医学(精神機能障害学)と芸術学(感性情報学)の研究者が集結し、人間の心が発揮する多様な機能性を多角的に取り扱い、理解し、その成果を応用するために実効性の高い異分野融合型組織構成がなされている。本教育プログラムは、「こころ」の科学という新しい人間科学領域を確立し、共通の目標を見失った今の日本社会に対して、新たな心の拠り所となる明確で、確実な着地点を示せるような基礎研究者や教育者、異分野融合的知識を駆使して病める人の「こころ」を癒せるような臨床精神機能障害学研究者、さらに現代の、そしてこれからの社会が求める人の「こころ」に響く製品に思いが至るような企業研究者の養成を目指すものである。本事業実施のための経費、教育環境の整備、関連規則の見直し、人的資源配置等に関しては、大学として可能な限り積極的な措置を行い本事業の目的達成を全面的に支援する。</p>			

機 関 名	筑波大学	整理番号	d002
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>本専攻の設立の背景には、物質的・経済的に繁栄した現代日本社会において個人とそれを取り巻く社会が抱える諸問題に取り組むことのできる研究者の養成においては、あらためて人間の「こころ」の問題に立ち返る必要があるという基本理念がある。そのために、比較・生理心理学や脳科学という人間研究の基礎分野と、感性情報・デザイン学や精神機能障害学といった人間科学の応用領域とが融合するという、国内はもとより国際的にみても極めてユニークな専攻が誕生した。このような異分野融合型の新組織を基盤に、旧来の教育課程ではなし得なかった分野横断型教育を試みてきた。たとえば、学内プロジェクトの一環として、自閉症という対人的行動情緒障害について、その脳内分子機構、動物行動モデル、行動療法的視点、小児精神発達医学的基礎などの多角的な講義に加え、感性情報学の手法を用いた障害児教育支援ソフトの開発・運用実習や発達障害児の指導場面の実地体験などを行った。また、産業界との共同プロジェクト研究として進められた、自動車のドライバーの「感性」の働きに関する神経生理学的測定という修士論文研究では、システム脳科学と感性情報学の教員が共同して学生指導にあたり、社団法人自動車技術会2005年度大学院研究奨励賞を受賞した。さらに本専攻を中核として平成15年度より進行している文部科学省21世紀COEプログラム「こころを解明する感性科学の推進」を通して専攻内の教員間での「感性」についての異分野融合的共同研究を進めてきた。こうした試みを通して、異分野融合型教育の重要性が再認識されると共に、現行の分野横並び式の科目構成ではその教育効果に限界があり、せつかくの新組織が十分に機能し得ないことが明白となった。そこで本事業では、分野融合的プログラムの試行実績を基に、専攻所属教員の多様な専門性を、「感性」のみならず広く「こころ」という高次脳機能に関する、分野融合型教育プログラムに効率的に集約する取り組みを行う。そのために、すべての開講科目を見直して大学院入学当初から博士論文作成までを一貫した積み上げ式のカリキュラムシステムに再構築し、基礎、専門知識、課題発見能力、研究遂行力、成果発表能力の養成を分野融合的教育体制で行う。このような、分子、システム、行動神経科学から感性情報、臨床精神医学までを統合した教育プログラムを通して、現代社会が必要とする新しい「こころ」の科学を創成できる基礎・応用研究者の養成を目指す。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>本申請では「こころ」の科学の研究者育成のために次のような分野融合的教育カリキュラムを提案する。</p> <p>①「こころ」の科学者としての基盤を作る教育課程: 分野横断型オムニバス形式の講義と実用技術体験実習により心理学・情報学・神経科学の基礎知識と研究技能を習得させ、「こころ」の科学者としての学術的・方法論的基盤形成を目指す。</p> <p>②「こころ」の科学者としての自立性を促す教育課程: 公的研究機関・企業開発部門などでの学外短期体験実習と「こころ」に関するキーワードのウェブ調査研究を課し、現代の日本社会が求める「こころ」に関連した研究課題を学生自身に発掘させ、人間研究の糸口発見に繋げるための目の付けどころとは何かを体得させる。</p> <p>③「こころ」の科学者としてのスキルを磨き知識を深める教育課程: 分野連携で行う学生プロジェクト研究や専門科目教育を通して分野融合的な研究企画力、遂行力、成果の論理的説明力、高度な専門知識を習得させる。</p> <p>④「こころ」の科学の研究成果を世界に発信するスキルを養う教育課程: 英語プレゼンテーション力の訓練や国際共同学生プロジェクトを通して、「こころ」の科学者としての国際的総合力の強化を図る。</p> <p>以上のことにより世界に通用し、信頼される真の「こころ」の科学者が育成される。</p>			

6. 履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・「こころ」に対する、脳科学・行動科学・芸術学・心身障害学の異分野融合的アプローチに特色がある。心理学は我が国では人文系に分類されているが大学全体で脳科学と統一して教育することを目指している点、教育方法としては「社会が求める人間研究課題」を発掘する試みやHands-on実習などが高く評価できる。
- ・また、心理学と脳科学との連携は国際的にも重要課題であり、国際性のある研究者養成のための「ジャーナルクラブ型セミナー」も用意されており、成果が十分に期待できる優れた取組である。